

薬剤師主導による多職種連携医療シミュレーション教育の取り組み

○西宮 祐輔¹, 名和 秀起¹, 錦織 淳美¹, 小川 敦¹, 山田 あかね¹, 日野 隼人¹,
白石 奈緒子¹, 山地 恵民¹, 香西 佳美⁴, 万代 康弘³, 大澤 晋², 北村 佳久¹, 千堂 年昭¹
(¹岡山大病院 薬, ²岡山大病院 心臓血管外科, ³岡山大病院 消化管外科, ⁴岡山大学 医療教育統合開発センター)

【目的】薬学教育は医療技術の高度化、医薬分業の伸展に伴い、臨床現場での高い能力を備えた人材育成を目的として 2006 年より薬学部修業年限に 6 年制が導入され、臨床現場のニーズとしても高い実践力が求められている。しかし、医療現場において薬剤師と医師・看護師との患者把握に対するアプローチの相違が解消できていないことも事実である。我々は 2014 年 3 月に岡山臨床薬剤師シミュレーション研究会(Clinical Pharmacist Okayama Simulation Training; CPOST)を発足し、卒後薬剤師教育の中で現在何が必要であるか、またどのような医療教育が薬学部 6 年制教育で欠如しているかを確認するため、医療シミュレーショントレーニングを用いた方法で検討した。【方法・結果】院内薬剤師を対象にした疾患テーマ毎のシミュレーションプログラムを立案し、実施前後での筆記テストおよびアンケート法を用いて調査を行った。その結果、シミュレーションを行う前後で疾患テーマに対する知識に有意な向上を認めた。また、アンケートから薬剤師の知識で不足しているものが解剖学・病態生理・診断学であることが判明した。【結語】臨床現場では治療の最終目標は患者であり、医師・看護師・薬剤師を問わず同一である。そこへの到達過程が薬剤師は薬学教育であり、医師・看護師は医学部系教育が基盤にある。この学部教育課程での患者アプローチの相違が、薬剤師が臨床現場で十分に実力を発揮できていない原因である可能性が示唆された。病態生理・疾患の全体像を把握し、臨床現場に即した知識の不足を補填する目的で、高い臨床能力を有した薬剤師育成としての医療シミュレーション教育の導入は、臨床現場で薬剤師の能力を引き出す上で効果的な方法であると考えられる。